

全 員 戦 力

「共に生き残る」ための人材戦略

少子高齢化に伴って人材不足が深刻化している。そこで、三社三様の方法で「全員戦力化」に挑む企業に取材。少数精鋭で成果を出すことが求められる中小企業が、社内外で連帯して「共に生き残る」ための知恵とは——。取材・文 上阪 徹

うえさか・とおる ブックライター。1966年兵庫県生まれ。89年早稲田大学商学部卒業。ワールド、リクルート・グループなどを経て、94年フリーランスに。近著に『マインド・リセット』（三笠書房）、執筆協力に『熱くなれ 稲盛和夫 魂の瞬間』（講談社）など。

Case 1

「男性だけが戦力」の組織を変えた “人にフォーカスした経営”

社員のほとんどが男性だった職場は、社長の交代とともに大きく変わった。今や設計・開発など、ものづくりの主要部門で女性が三割を占

男性偏重の組織で失われていた「人間力」

「男性が本業を担い、女性は補助的な業務をやっていたらいい」——そんな不文律がまかり通っていた時代がある。多様性への取り組みで、同社を誰もが戦力として活躍できる組織に変えた西岡さんは「企業は人がすべて」と力を込める。

「他社のまねではなく、自社の風土に沿った人材戦略を考え続けるべき」と語る西岡さん



株式会社光機械製作所

代表取締役社長 西岡慶子

【会社概要】▷創業=1946年

▷事業内容=製造業(専用工作機械、切削工具の設計・販売、レーザーによる超微細加工)

▷従業員数=95名▷本社=三重県津市